

# 錦上添花

錦ヶ丘中学校  
学校便り  
7月12日発行 NO.12  
文責 出崎友英

## 心のままに

誰かに親切にしたいと思いながら、実際に行動することはなかなか勇気がいることです。今回は、真和中学校の清水阜樹さんの作文を紹介します。

「心のままに」

清水阜樹

ジャラッ。あ、転がる！僕はとっさの動きで散らばる小銭を追いかけた。夕方の電車は混雑していて、人の足のすき間をはうようにして動くのがやっただ。数枚拾って見渡すと、ほこりのたまった溝の部分にも50円玉と10円玉が入り込んでいた。それも拾って汚れを払い、落とさないように握りしめた。落とし主はわかっている。人をよけながらたどり着き、僕は小銭を差し出した。どうぞ、とか全部じゃないかもしれないけれど、とかそんな言葉を言うつもりでいた。でも実際には「これ」と言うのがやっただ。相手がとても不機嫌そうな顔をしていたからだ。拾ったらいけなかったのかな。僕は困惑した。その女子高生が派手に小銭をまき散らしたとき、なぜか僕以外に拾った人はいなかった。僕は中学生になって電車通学を始めたばかり、もしや暗黙のルールでもあったのだろうか。女子高生は僕から小銭を荒っぽく受け取ると、パッと顔を背けて去って行った。迷惑だったのかな。電車を降りてからも考え続けた。心の温度が下がっていくような変な感じがした。

これまで僕は人が困っていたら助けるのが当たり前だと思っていた。でも、人によってはそれを嫌だと思ってしまうのかもしれない。そんな人は案外多くいるのかもしれない。親切をためらう気持ちが僕の中で生まれていた。➤

それから少し後、カフェ併設のパン屋でのことだ。僕と父が店内に入ると、高齢の女性が買い物を終えて熱々のコーヒーを片手に、もう片方の手でシルバーカーを押して外に出ようとするところだった。見た瞬間、ヒヤリとした。あの不安定さでは、コーヒーをこぼすか、下手したら女性がシルバーカーごとひっくり返るのではと思ったからだ。手伝いましょうか。いつもならすぐ出る言葉だった。でも、喉がぐっと詰まった。女子高生のにらむような顔が浮かぶ。足がすくむ。どうしよう。迷っている間にも女性はシルバーカーを揺らして進もうとしている。焦っていると、横にいた父が「持ちましょうか」と声をかけた。女性からコーヒーを受け取り、出口部分の段差でシルバーカーを支え、近くの席に女性を座らせる父。戻ってくる父の向こう側では、もう女性がコーヒーを飲み始めていた。

コロナ禍で一時期は制限されていた店外のカフェ。女性がゆったりとくつろいで幸せそうにしているのを見ていたら、僕の胸には後悔がわき上った。迷うことなんかなかった。人が人に親切にしていけないことなんか、あるはずがなかった。

自分が親切心からそうしたいと思ったのなら行動していいはずだ。拒まれたならまた、その時考えればいい。そしてふと思った。あの女子高生は怒っていたのではなく、注目されて恥ずかしかったのかもしれない。

いや、もはや真相はわからない。でも何であれ、僕はこれから心のままに前向きに、人への親切をためらわず生きようと思った。



令和5年度「小さな親切」作文コンクール全国特別優秀賞作品

## 公開授業がありました。

7月10日(水)、2年5組で理科の●●先生の公開授業がありました。本校の先生方や教育センターの研究員の先生方が多く参観される中、【めあて】【振り返り】【対話】の3つのポイントを意識した授業でした。授業後は、参観された先生方で授業研究会を行いました。●●先生の実践を通して、先生方同士が学び合う貴重な時間になりました。●●先生と2年5組の皆さん、ありがとうございました。



## ◆お知らせです。

○7月5日(金)に開催された「NHK杯放送コンテスト熊本大会」において、アナウンス部門で、2年●●●●さんが**最優秀賞**、3年●●●●さんが**優秀賞**、朗読部門で、3年●●●●くんが**優良賞**に輝きました。3人は、熊本県の代表として全国大会に進みます。



3人の皆さん、おめでとございます。

○7月11日(木)に、1年生が「歯の健康」について学習しました。学校歯科医の先生と東区役所から歯科衛生士の方々をお招きして、歯肉炎の予防と口内の健康についてお話を聞きました。実際に自分でブラッシングしたあと、どれくらいきちんと磨けているかを確認する活動にも取り組みました。ご指導いただいた皆様、ありがとうございました。



本当の強い人とは、人にやさしくできる人

「先生のコトバ集」より